

# 図書版だより

題字 田部島根県知事

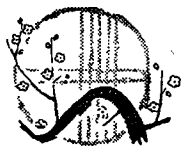
号数	第9号
発行日	昭和45年8月15日
編集	楫野健治
発行	島根県立図書館 松江市内中原町52 TEL (0852) 21-2101
印刷	渡部印刷株式会社



## 思 い 出

大正10年、高等小学校2年生の時のことである。国語の教科書に「鉢の木」の物語が出ていて、それを勉強した。先生は「寸紅」という雅号をもつ女先生で、俳句をよくされた。

この文章を読む程に聞く程に、佐野のわたりの雪の夕暮れが目の前にはっきり浮び、破れ小屋での北条入道時頼と佐野源左衛門常世とのひとときのやりとりが、すばらしい情景を生み出して私の全身全霊をゆさぶり、この感激をもて余した。その夜、家に帰って原稿用紙に綴り方を書いた。題は鉢の木、内容は私の主観を主にしての想像物語である。書いても書いても書き切れず、夜を徹して20枚位を書き終えて先生に出した。



その作品は今にして思えば冷汗ものであるが、それを書く時の興奮とその後のよこびは50年を経た今日、なおはっきりとよみがえってくる。教科書の中のある一文が、先生のすばらしい指導で14歳の少女の心を捉え、これをもとにして戯曲化の形をとった作文へと発展したことは、その当時は分らぬままに、現在ではすばらしい仕事をしたものだと思っている。私は読書による鮮烈な想像を楽しむ。

図書館協議会委員 福庭ミチエ

# 婦人の読書について

島根女子短期大学教授 檀原そえ子



女の人なら、誰れでも1度は「どうして女に生まれてきたのだろうか」とか、「女に生れて損をした」とか思うことがあります。

男の人は、そのまま人間であるのに、女の人はどこまでも、女でしかない。といった観念が、案外

いつまでも続いているようです。

ニセ同権だとさえいわれる、今こそ人間としての、女性の誕生を自身に求めてもみたいと思うのです。

女の歴史の疑問や、悲しさや、とまどいにゆき当たっている人々に、痛い程接するこの頃です。家族制度がなくなり、懸命に唯一筋に家のため、子どものために生きてきた女性に、老後のあり方の壁は大きなとまどいです。女の人達が長い、長い間生きてきて、今、この時代に私が生きている。これまでの人たちのためにも、また、これからの人達のためにも、今の時代を、今日の日を、しっかり生きねばならない。というような責任感を、感じ出しています。今の主婦たちが、学校で習った歴史は、一口にいえば、男の歴史です。政治も戦争も、経済の仕組みも、学問も、そのにない手はたいい男の人でした。わずかに清少納言や、光明皇后、ナイチンゲール、キューリー夫人が顔を出す程度です。

女の人達がどのようにして、結婚し、家事を切り盛りし、どんな願いをもち、どんな仕事をしたかということとは、実はよく分っていないのです。女の歴史を読んでいると、そのへんがよくわかって、いつの時代にも女性は女性なりに、たくさんの圧迫や、遍見とたたかいながら、一生懸命生きて来たのだな、と感慨深く身につまされるおもいです。女性史の紹介は紙数の関係で、ここでは止めます。

最近著しい科学の進歩により、社会には無数の情報、がはん乱しています。はたしてわれわれにとって、どの情報が役立つのか、必要なのか、はたと迷うことがあります。

女の歴史を読むと同時に、私の歴史を書いてみてはいかがでしょう。戦前から戦中、戦後にとわたしの来し方は、それぞれに、大きな波乱に富んだものであったと驚くほどです。私の歴史を書くことは、この国の、あらゆる部面の大変化との一致を見出すでしょう。それらをはっきりと、自信をもって、家族にも、社会にも、この国の後世にも残すべきだと思うのです。

次にテレビその他を通して入って来る情報の数々、暮らしのこと、公害のこと政治に教育に正しい判断を持つためにも、今日ほど読書の必要さを痛切に感じることはあり得ません。かつこの女性のように、黙して与えられるままに待つことは許されません。女性の幸福は人間全体の幸福につながることで、次に幸福を求めることが、読書と深い関係にあると考えますので取りあげてみましょう。

(1) に幸福とは、人間として自由な生存を保障することで、自由に行動し、自由に語り、自分の経験と判読によって生きること。

(2) 教育ということ。現在情報化時代で、生涯教育も叫ばれています。情報が進むだけに自己の判断が必要です。寸暇をさいても読書が必要です。主婦の生活は複雑です、案外読書に遠ざかってはいないでしょうか。1日24時間の生活設計をして、個人で時間を作って読むことも、または共同学習として読書会を持ち、語りつつ学ぶ方法もあるでしょう。長くなった女性の一生(寡婦時代が7年以上と統計は物語っています)仲間作りもできるかと考えます。

(3) 経済的条件があげられるでしょう。私どもには憲法第25条で「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を保障されています。したがって心の幸福、平和も尊いのですが他面、物資、貨幣、時間、労力という、経済学の法則が支配していることも忘れてはなりません。物価が高く、教育費、交際費に苦しんでいる折柄、よき図書館ができ、移動設備等の利用で必ずしも、高価な図書費の不足を助けてくれます。

(4) 酷しい世相に、最も望まれるのは、人間の相互愛です。人生にうるおいを与え、豊かにする愛情です。親子の愛、夫婦の愛、友情、国を思い、花や自然を愛し、仕事に精魂を傾ける等根本に愛情が必要でしょう。愛情の泉を持ち続けるためにも、良書の必要さを思います。

(5) 人類の将来に私たちをつなぐ、信仰とか信念という、前向きの姿勢を持つことです。きびしい世相の中で、読書を通して、無限をみつめた、動かないものを把むためにも、読書が必要でしょう。

立秋です。万博も終ろうとしています。社会は様々な問題を抱えながらも、前進を続けております。秋の夜長に、歴史の一点としての小さな自己を見つめつつ、読書と取り組み、将来に生きる術を身につけ、そして迷わぬ自己の存在を刻みゆこうではありませんか。

問 家庭の主婦でも読める理工学関係の本がありますか。

答 理工学関係の本は理論も大変難しいのですが、何よりも記号や数式が随所に出てくるので、専門教育を受けた者でないと歯がたたないというのが現状のようです。言語の性質上、それのみで精緻な理論を説明することは非常に難しいことです。したがって多くはベテランの学者によって書かれたものが多いようです。以前は岩波新書がこの種の唯一のものでしたが、今ではかなりの出版社が普及本として新書形式のものを出版するようになりました。例えば講談社のブルーバックス（高橋長雄著からだの科学等）、中央公論社の中公新書（黒川紀章著ホモ・モーベンス等）、講談社の現代新書（石原健二著 台風の科学等）、日本放送出版協会のNHKブックス（森口繁一著 電子頭脳等）、それに岩波新書等がそれです。こういう本を少しずつ読んで行くうちに理工学といえども案外身近なものであり、面白いものだということが分ります。とにかく最初に興味ある本を一冊読了されることをおすすめします。

（平均200頁・200円位です）

### 図書館司書のメモ

深田百合子

人間は一生の間に、いったいどのくらいの本を読むことができるだろうかと考えてみた。かなり以前から、鹿児島県立図書館館長の椋鳩十氏によって始められ、全国的に広まった「母と子の二十分間読書」という運動がある。これを基準にして毎日二十分間ずつ本を読むと、1カ月に600分、つまり10時間の読書時間が持てる。1冊の本を読みあげるのに平均2時間とすれば、この10時間で5冊は読むことができる。1カ月に5冊読むとすれば、1年間では60冊読めることになる。この割でいくと小学1年生（6歳）から読みはじめて、70歳（平均寿命）までの65年間に、ざっと4,000冊ぐらい読むことになる。日本は世界第二位の出版王国といわれ、年間に28,000種の本が出版されている。これをかたっぱしから読むとすれば、一体何年間かかるだろうか。計算するのもうんざりする。

子ども時代は感受性の強い形成期で何事にも非常に染まりやすく、そのころの印象が蓄積されて成人した時に現われる人格のパターンとなる。ことわざに「こどもはおとなの父」というのはこのことだろうか。

たまに児童閲覧室にすわることがある。こんなとき好みの本を抱きかかえて（それがいかにボロボロであろうと）スキップしながら帰っていく子どもたちを見て、つくづく良い本を読ませたいと心から願うのである。

## 私たちの読書グループ

「私たちは学ばなければならない」と心から思ったのは母となってからです。

子を育てるということは女性にとって大事な使命であり、真剣に考え、学び、行ない、求めて行かなければなりません。こんな気持ちが高まり私達が読書グループを始めたのは、浜田市母親と女教師の会（会費制、年間120円）運営委員会で「読書グループを作って学習しよう」ということになり、以来7年間続けており、読んだ本も40余冊となりました。

当初39名で発足し助言者に原井校杖田先生それから尾崎先生、林光博先生とかわり現在に至っております。本も各自1冊ずつ持ち（世話係が取りまとめ購入配布する）隔月に開いていたものを現在は定例日を定め毎月1回集っております。会員の出入りも多少あり現在は母親だけとなりましたが、教師はまた別に会を続けております。

本の洪水ともいうべき中から私達が目を通せる数は本当に氷山の一角に等しいと思います。しかし読んだ本をグループで話しあい、自分の体験を通して文の内面に迫まることもできます。また心の迷いを明確にし、自分の理想を確立するよき指導者ともなります。

小説には小説のよさがあり、文学には文学のよさがあり、伝記には伝記のよさがあり人生を充実したものに変わってゆくこともできます。

私達が多忙な母親の日常生活の中から読書の時間を生み出すということは大変な努力がいります。しかし工夫すればできないことはないと考えられます。

運営方法もディスカッション方式、発表会方式、輪読方式も時には取り入れ、テープコーダーに録音したこともあり、県立図書館の巡回文庫を利用した時もあります。

会場は学校から公民館、会員の家、そして現在は市立図書館会議室をおかりしております。誰もが母親という気持ちで自由に話しあっております。

変ぼうする現在の世相に対処してゆく心の糧として、また多忙な中にひとときの心のゆとりを持てるということのしあわせをしみじみ味わっております。

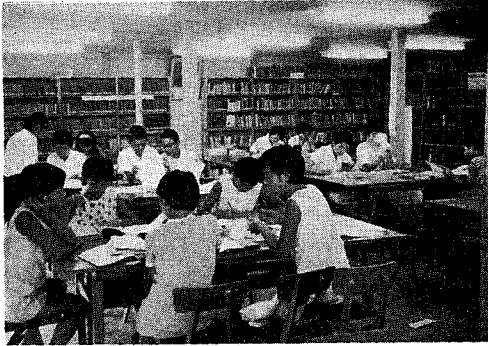
これとは別に短歌グループの中で古典を（伊勢物語、現在は源氏物語、助言者、浜高、厨川登久子先生）少しずつやっております。

浜田市 母と女教師の会 唐馬スズヨ



# 公共図書館の広場

## —— 大田市立図書館の巻 ——



### 沿革

昭和29年旧安濃郡、邇摩郡の町村を合併して大田市は誕生したが、それ以前それぞれの町村の公民館で図書室を設置している所が数ヶ所あった。しかし市制実施と共に別に中央図書館設置の要望が次第に高まってきた。

そういう折柄、昭和31年夏、田原市長が上阪した際、大田町出身で現在大阪市で捺染業を営んでいる和田哲夫氏（現大田市名誉市民）から図書購入費として160万円の寄付を受けたので、市ではこれをもとに、市立図書館開設の準備を進め同年10月16日に大田町に創立し、大田市教育長今岡赴が初代館長を兼ねた。

昭和31年12月17日寄付者和田哲夫氏はじめ、内外の関係者多数を招いて盛大な開館式を挙行、即日開館した。

最初の建物は教育委員会の事務室の階下の一室をこれに充てていたが、昭和38年に和田哲夫氏より再び独立した図書館建築費の寄付があったので、大田市民会館の横に建築し、昭和38年11月1日ここに移転した。

### 位置

大田町は静間川を境にして南と北の地区に分かれ、南の地区は旧市街ともいわれるところで、市役所、銀行、農協等の官公署、企業団体や商店が集まっているが、近年この川から駅に至る北側が次第に開発され、商店もこの方面に漸次進出しつつあるが、図書館も川に沿った市民会館の敷地に建設されている。周囲に市民会館のほか大田市消防署、有線放送本部、警察署が建っている。

### 概況と利用状況

建物は鉄骨構造2階建、延面積310平方メートルで、階下に閲覧室1、書庫1が設けられ、2階は保存書庫、製本作

業室、広間になっている。職員数は館長の外専任職員2名である。

館内利用者の大半は学生で、中でも高校生が多い。ことに学校の暑中休暇の期間は、小中高校生の外、帰省の大学生も加え朝から満員の状態になり、宿題の郷土史や、採集した昆虫、植物を調べるため図鑑を見たり百科事典を調べる姿が毎日のように見受けられる。

館外貸し出しを受けるのは一般成人が多く、次に小学生、高校生、中学生の順である。

### レファレンス

参考事務いわゆるレファレンスは当館では重視している仕事で、このための各種辞典、図鑑類、その他の参考書はできるだけ備えるようにしている。また新聞は朝日、毎日、島根、中国、読売、産経の各紙共昭和31年12月の開設の日から今日までのすべての新聞を製本して保存している。レファレンスの依頼も最近漸次増えてきている。

### 読書会

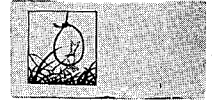
当市久利町の銀泉会では昭和42年12月より万葉集読書会を毎月行なっているが、この読書会に当館の職員1名が出席し、司会と指導に当たっている。テキストには斎藤茂吉の「万葉秀歌」を使用しているが、このようにただ1つのテキストを1貫して用いる読書会は珍しいケースといわれよう。

### その他の館外活動

久利町、三瓶町の公民館を通じて団体貸し出しを毎月行なっているが、ことしの目標として祖式、大代、山口等の中央より遠隔の地に重点的に団体貸し出しを増加したい考えである。

その他の館外活動は人員が少ないためほとんどやれない状況でただ秋の読書週間に際して、県公共図書館協議会の巡回で行なう、現代著名作家の原稿や色紙展を行なうくらいであるが、ことしはこれに合わせて当館独自の計画で明治・大正時代の雑誌の表紙や口絵展、明治・大正・昭和の代表文学作品の初版の複製版の展示会もしたいと考えている。

# 婦人向良書紹介



「ひとり旅」串田孫一 日本交通公社  
ノシャップ岬、三国街道、霧島。思索と漂泊の旅。  
「風の音を聞き、雨の音を聞いているうちにまだ知らない土地を風に吹かれ、雨にぬれて歩いているような気持ちになる。……少なくとも私たちの旅には終りがある。終わりがあるために新しい旅立ちを考える。」旅する時の告白を簡潔な味わい深い文と、そしてユニークな絵筆でつづる異色随筆集である。

「愛は死と共に」山崎富栄 虎見書房  
太宰治と共に玉川上水に身を投じた女性—山崎富栄の全日記集。太宰との出逢いから、死の当日までの生命をかけた恋の感動の記録である。

「作家自身のシリーズ」KKベストセラーズ  
作家が自らの編集センスで作出した本で「もう一度目の目を見させてやりたいものばかり」（阿川弘之）。  
「できるだけこれまでの単行本に未収録の種々雑多な作品を揃え、気儘な本をつくってみようと思った」（吉行淳之介）、その他、遠藤周作、近藤啓太郎など個性豊かな作者達の個人的な著書である。

「出雲の阿国」全三巻 有吉佐和子 中央公論社  
豊富な肉体に踊りへの、そして人間へのはげしく燃える情熱を秘めて一心に踊る阿国。桃山文化を生きた歌舞伎の創始者、天下一の名をとどろかせた踊りの名手阿国。出雲の地に、斐川の里に阿国を求めて旅した著者が全力を傾けた力作で読者を魅了する。

「花々と星々と」犬養道子 中央公論社  
幼ない道子のまわりを華麗な花々のようにきらめく星々のように、犬養家の人々や、歴史に名をつらねる人々が登場する。それは現代史の黎明を告げる。政治家の祖父、文学者の父、若く美しく時にはたのもしくさえ思われた母、愛情こめた筆で語りつぐ著者の自伝的作品である。

「子供の世界」竹久夢二 龍星閣  
夢二の絵に自分の青春を見る人も多いだろう。明治31年から昭和5年に幼少年の絵本や児童雑誌に描いた挿絵および「月刊夢二絵はがき」の作品389点を集成したなつかしい作品集である。

「五官育児法」国分義行 主婦の友社  
「地球にふたりといない赤ちゃん。前の赤ちゃんとはおでこが違う。後の赤ちゃんとはおめめが違う。個性ゆたかに新しい人間像を開く。無限の可能性をもつおとなになるように、慈恵大小児科医である著者のこのような願いから書かれたこの本は宇宙時代を迎える今日に即応

した育児法といえよう。

「日本生活歳時記」社会思想社編刊  
1年を12カ月にわけ、各月の始めに「年中行事生活歳時一覽」をあげその中から季節感あふれる項目を選び解説してある。たとえば「5月生活歳時記」郷土だより、大根島の春色—島根県中海に浮ぶこの島は面積……古くから牡丹園が多く春の開花期には牡丹見物の臨時船が連日島へ通う。」というようである。

「肥満児」松岡弘 帝国地方行政学会  
肥満の中には単純性肥満と内分泌の異常によってもたらされた病的なそれと2種ある。このような見地から、特に学童期にみられる肥満児についてその本質をできるだけ広汎な文献的考察を行ない、さらに著者自らの研究結果をも加えて肥満児の正しい理解と指導に適するように書かれたものである。

「崖のある風景」田村のり子 木犀書房  
著者はかつて県立図書館の要職にあった夫君を不慮の事故で失ない不運の断崖に立たされた人である。ハイヒールをならして贅沢に歩きたいと願う日、愛児によせる母情、幸せな家庭での時にユーモラスなできごと。「詩が好きなら詩書くがよろしい」と17年間いたわってくれた夫への痛切な慟哭。1人で生きる年月の間に美しく昇華していく人への挽歌。こうした50篇の珠玉のような作品をちりばめ美しい詩集である。「あいたくそろ見たくそろ、ものがたりなどしたくそろ、いまはとわにあえずそろ」（長根より）

「子どもの本の事典」坪田譲治編 第一法規  
特に作品を中心として子どもの本の価値を追求した本である。子どもの本の世界は必ずしも良い本ばかりで構成されているとは限らないが、子どもの発達段階に応じて適書を与える事が大切である。本書は子どもに本を与える時の教師・母親用のテキストともいべき本である。

「宇野重吉の語りきかせ（仙人のゆび）」川崎大治作 風濤社  
宇野重吉が静かに力強く語りきかせてくれる。最近はおばさんが孫に昔話を聞かせてやるという事もなくなったためかもしれないが活字をひろく読書とは違った味がある。上手な語りというのは技巧ではなく内容であり内容を把握してからの技術の問題である。語り口のさまざまな方法を研究して子どもに語りきかせをしてやりたいものである。

# 寄 贈 図 書

S.45.5 ~ S.45.7



図 書 名	住 所	寄 贈 者
伸びゆく大阪EXPO'70	大阪府	大阪市公聴部
奥出雲神話の谷間から	益田市	キムラ・フジオ
益田町史	〃	益田市立図書館
ふるさと百話	松江市	NHK松江放送局
新成人の生活実態と学習意欲	〃	島根県
文化財協会報	丸亀市	守 作次郎
川崎汽船五十年史	神戸市	川崎汽船株式会社
大野伴睦	東京都	大野伴睦先生追想録刊行会
近世松江藩領内に於ける鉄山業	松江市	田部 越
神奈川県史	横浜市	神奈川県企画調査部
山陰史談 1	松江市	山陰歴史研究会
さざなみ	出雲市	島根県立さざなみ学園
学習指導の近代化に関する研究	松江市	教育研究所
日本国有鉄道百年史 2	東京都	日本国有鉄道総裁室
村に春近く	安来市	清山健一
崖のある風景	松江市	田中のり子
修学旅行	東京都	日本修学旅行協会
子どもと共に五十年	CANADA	伝藤伝・英子
伊丹市史 第6巻	伊丹市	伊丹市役所
大野郷土誌	松江市	大野公民館
就職ガイド71年版	東京都	ダイヤモンド・ビッグ社
湖畔のあしあと	松江市	島根県立青年の家
上、下	松江市	ユースホステル大社
大 社	大社町	グループ
戸田小演説所出入取扱	益田市	益田市立図書館
済書	松江市	前田圭史
山陰俳人名鑑	松江市	曾根清市
続亀の子人生	茨城県	栗原基一
日本の始まり	広島市	東京都公文書館
東京の初等教育	東京都	神宮司庁
神宮、明治百年史下巻	伊勢市	寺田 浄
第1線の見た蘆溝橋事件記	防府市	浅野サダ子
史談無刀流	小田原市	福田明正
島根県における柔道、剣道の変遷	松江市	群馬県教育委員会
白沢村の民俗	松江市	日本赤十字社島根県支部
日本赤十字社史稿	松江市	大分県庁
第5巻	松江市	社会教育課
大分県の産業先覚者	松江市	〃
御華山弥生式墳墓調査概報	〃	〃
公民館活動の実態と今後の課題	〃	吉田茂伝記編集委員会
美しき工芸技術	〃	高谷覚蔵
吉田 茂	東京都	日本書籍出版協会
日本革命の戦略	〃	施設課
日本総合図書目録	〃	野津
学校施設の整備と維持管理	松江市	日本水産資源保護協会
山茶花の記		
公害による漁業被害の損害賠償に関する研究		

## — 4月1日から5月末日まで —

45年4月1日	全国観光パンフレット展 (4月中展示)
3日	自動車文庫巡回 (広瀬・横田コース)
11日	文化映画を見る会、ステレオコンサート
14日	サンフランシスコ都市圏計画委員 (都市再建局長) ハーマン夫妻来館視察
18日	古文書を読む会 春季ばく書 (27日まで休館)
22日	自動車文庫巡回 (那賀コース)
24日	県立図書館友の会役員会
25日	佐々田奉光会中谷理事外2名来館視察
27日	自動車文庫巡回 (島根半島コース)
28日	著者を囲む読書座談会 (於集会室、講師伊藤菊之輔)
30日	自動車文庫巡回 (伯太コース) 自動車文庫巡回 (平田、日御碕コース) (4月中閲覧者総数 6,250名)
5月1日	児童文庫受賞作品展 (5月中展示) 自動車文庫巡回 (八東コース)
4日	職員研修会 (於集会室)
6日	自動車文庫巡回 (広瀬、横田コース)
8日	頓原町立頓原小学校4年生60名見学
9日	文化映画を見る会、ステレオコンサート
10日	子ども大会 (子ども読書週間行事)—— 小学校高学年、中学校向
11日	松江市理容青年学級視察職員学習20名 松江市立朝酌小学校5・6年生90名館内見学
12日	自動車文庫巡回 (邑智コース) 映写機登録検査 (安来市) 島根大学教育学部研究室研究生12名・埼玉県大宮市立図書館職員来館視察
13日	映写機登録検査 (平田市)
14日	同 上 (出雲市) 横田町立鳥上小学校4年生20名館内見学
15日	映写機登録検査 (出雲市)
16日	古文書を読む会 伯太町并尻小学校3、4、5年生90名館内見学
17日	子ども大会 (小学校低学年向)
18日	自動車文庫巡回 (美鹿コース) 映写機登録検査 (大田市川本町、浜田市、益田市21日迄)
19日	大社町立うさぎ小学校4年生25名館内見学
20日	県公共図書館協議会総会 (出雲市)
21日	図書館協議会 (集会室)
25日	映写機登録検査 (隠岐島)
27日	県立安来高校図書委員7名館内見学
28日	仁多町立三成小学校4年生50名館内見学
29日	鉦鹿敏子ほか2名来館視察 (初代島根県知事令孫)
30日	出雲古代文化を訪ねて (友の会事業) (5月中閲覧者総数 9,020名)

# 告 知 板

## 全国公共図書館視聴覚部門研究集会 本年10月島根県立図書館で開催

標記全国大会が、下記要項により、当島根県立図書館で開催されることになりました。県下の公共図書館、教育委員会、視聴覚ライブラリー、公民館の職員をはじめ、学校教育社会教育関係者の方が多数参加され研修を深められるようご案内いたします。

1. 主 旨 情報社会に即応する近代図書館として伸展するために新しい視聴覚メディアをどのようにとり入れ、活用したらよいか研究協議する。
2. 主 催 日本図書館協会公共図書館部会視聴覚分科会、島根県教育委員会
3. 後 援 島根県公共図書館協議会、島根県視聴覚教育連盟
4. 期 日 昭和45年10月22日(木)、23日(金)
5. 会 場 島根県松江市内中原町52番地、島根県立図書館
6. 参加者 公共図書館、教育委員会、公民館、視聴覚教育関係者

### 7. 研究内容

- (1) 講演 演題「情報社会における図書館視聴覚の課題と方向」  
講師 文部省社会教育官 斎藤伊都夫
  - (2) 全体研究(講義と質疑応答)
    - ① 主題 「近代図書館における聴覚機器の活用」  
講師 島根大学助教授 井藤芳喜
    - ② 主題 「近代図書館における映像メディアの活用」  
講師 東京宝仙高等学校教諭 中沢茂夫
  - (3) 部会別研究
    - ① 都道府県立部会 主題 「都道府県立図書館における視聴覚活動のありかた」  
指導助言 文部省社会教育官 斎藤伊都夫  
事例発表 東京都立日比谷図書館視聴覚係長 八木善四郎  
大分県立図書館視聴覚係主査 渡辺喜六  
島根県立図書館視聴覚係長 安達広義
    - ② 市区町村立部会 主題 「市区町村立図書館における視聴覚活動のありかた」  
指導助言 公共図書館部会視聴覚分科会長 茂庭邦元  
岩手県立図書館館長補佐 石川順三  
事例発表 高知県高知市市民図書館 島崎 茂  
島根県出雲市立図書館 杉原 明
- 司 会 山口県下関市立下関図書館視聴覚ライブラリー 主事 野村忠司

### (4) 日程

時刻	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
第一日	受付	開会式	全体研究 (島大 井藤 宝仙高 中沢)	昼食 休憩	部会別研究 (都道府県立部会 市区町村立部会)					
第二日		部報告	講演 (文部省 斎藤)	閉会式	昼食 解散	観光(希望者のみ)	出雲大社日御碕			

(注) 10月22日午後6時からむらくも会館で全員懇親会  
(5) 参加申込 昭和45年9月10日までに、島根県松江市内中原町52番地(〒690) 島根県立図書館振興課視聴覚係 TEL 0852-22-5731へ申し込む。

# 図書館ニュース

## 読書会リーダー研修会開く

最近経済的にも社会的にも多忙な生活環境の中で、深く物言を思考する生活態度が望まれています。こうしたことを反映してか読書に対する関心が高まりその1つの方法として各地で集団読書が活発にとりあげられつつあります。

県立図書館ではこうした読書会の推進力であるリーダーの研修会を、去る6月30日広島女子大学の新開肇先生を招き当館集会所で開催しました。

当日は県下各地から読書会のリーダー40数名が参加し、午前中は読書会を結成するための具体的な事例や問題点について講義を聞き、午後は映画「集団討議」を見た後で実際にテキストを使用して読書会の進め方について終始熱心な討議がおこなわれ、有意義な研修会を閉じました。

## 郷土の歴史講座を開講

——松江・浜田の2会場で——

郷土の歴史を見直そうと当館では友の会と共催で7月17日から5日間(20、21日を除く)『郷土の歴史講座』を開講しました。

郷土の考古学や中世の武将、幕末維新期の教育などについて、新しい角度からの研究成果や話題を提供し、郷土への再確認と愛郷心を深めようというもので、郷土史に関心を持つお年寄や大学生高校生らが毎日熱心に県立図書館で受講しました。

松江会場での日程は次のとおりでした。

- 7月17日 「苦悶の時代」 県教育研究所 松原高広氏
- 7月18日 「現代文学と松江」 出雲高校 藤脇久稔氏
- 7月21日 「古代豪族の系譜」 松江市立女子高校 東森市良氏
- 7月22日 「山中鹿介論」 松江南校 藤岡大拙氏
- 7月23日 「幕末維新期の教養」 出雲高校 藤沢秀晴氏

一方浜田市立図書館でも同講座の「山中鹿介論」と「幕末維新期の教養」について、同じ講師によって、21日午後1時から同図書館で開講、熱心な聴講者が押しかけ盛会裡に閉講しました。

## 事業予定

月	事業名	対象	場所	展示コーナー
9	自動車文庫巡回(第2回)	読書会等	関係市町村	鉦展
	著者を囲む読書座談会(第2回)	一般	県立図書館	
	読書普及利用研究協議会	モデル文庫 配本所主任等	〃	
10	本を読むお母さん教室(第2回)	一般	〃	森鷗外展
	秋季ばく書(10/18~10/27)休館		〃	
	全国公共図書館視聴覚部門研究集会(10/22~23)		〃	
	県図書館協議会(第3回)	協議会委員	〃	

# 新着資料の紹介

## 1. 図書資料

書名	著者
(総記)	
財界思想人全集 全10巻	ダイヤモンド社
雪椿	茅誠司
現代の常識	社会科学研究所
(哲学)	
水平思考5日間コース	デボノ
自由の原点 インマヌエル	滝沢克己
中年の未来学	サイモン
(歴史)	
原田甲斐	川野京輔
硬なき墓標	毎日新聞社
女人の京	岡部伊都子
(社会科学)	
情報化社会 全7巻	林雄二郎等編
保母養成講座 全10巻	全国社会福祉協議会
経済大国 〴〵にっぽん	金森久雄
過密・過疎	結城情吾
(自然科学)	
リトルサイエンス・ビッグサイエンス	Dプライス
魚の表情	竹村嘉夫
小児科医の救急ハンドブック	Bernhard de Rudder
病態栄養学双書 全12巻	塩川優一
リウマチと神経痛	伊藤久次
(工学)	
家庭電器読本	日本電機工業会
日本の鉄鋼資本	飯田清悦郎
エレクトロニクスのはなし	岩田倫典
ホームメイドのお菓子	河野貞子
(産業)	
ピープルマシーン	ーテレビと政治ー
江戸時代の交通	ロバートマクニール
放送学序説	田村栄太郎
庭園入門講座 全10巻	NHK放送学研究所
(芸術)	
日本刀の彫物	佐藤良樹
私の現代芸術	岡本太郎
壺中天	北川桃雄
(語学)	
カタコト英語で十分です。	イーデスハンソン
「広群苑」物語	新村猛
ビジネス英語入門	吉田竜恵
新語情報	高部義信
(文学)	
ガンからの逃走	丹羽小弥太
風に吹かれて	五木寛之

喪失 福田章二(庄司薫)  
闇の中の黒い馬 埴谷雄高  
開き過ぎた扉 石川達三  
夜の樹 トルーマン・カポーティー  
モデラート・カンタービレ マルグリットデュラス  
(郷土資料)

塩治旧記 秦清一  
大野郷土史 大野公民館  
ふるさと百話 NHK松江放送局  
(小中学生室)

おにたのぼうし あまんきみこ  
魔神の海 前川康男  
世界民話の旅 全10巻 朝倉純孝  
ネーとなかま 小笹正子  
(レファレンス室)

最新園芸大辞典 誠文堂新光社  
新版郷土史辞典 大塚史学会  
衛生工学ハンドブック 大橋文雄  
計 50点

## 2. 視聴覚資料(新着録音教材)

学校教育社会教育団体教育等で利用希望の向きはテープを持参くだされば複製サービスを行います。

家庭教育シリーズ第10集(子どもの成長と純潔教育)の一部各15分間

1. 家庭のふんいきと純潔教育  
夫婦親子の人間関係がかもしだす家庭のふんいきが、純潔教育上、こどもに及ぼす影響について良い例、悪い例の2つのドラマを通して考える。
2. 男の子・女の子  
思春期に入る前の小学校2年生と5年生の声をききながら、男女の性差や協力、いたずらなどについて考える。
3. 社会環境と純潔教育  
性についてのマスコミのとりあつかいや性についての社会風潮が、こどもに与える影響を家庭でどう受けとめ、対処していくか、親の声をききながら考える。
4. こどもの誕生と両親の祝福  
男女を問わず、その誕生を祝福すること、夫婦のいたわり合いがこどもに与える教育的影響等が純潔教育の基礎であることについて考える。
5. 思春期の悩み  
思春期のこどもの持つ身体的、生理的变化に対する不安や悩みに対する親の配慮を、個人差や男女差、自我のめざめ、読書指導等をとおして考える。
6. 純潔教育の考え方  
純潔教育についての基本的な考え方をのべ、家庭教育上の問題点等をとおして、人間教育としての純潔教育の意義を考える。